

0歳から18歳までの一貫教育のまち
『おおつち一貫教育推進』かわら版
大槌町は、教育を「つなげる」「ひろげる」まちです。



令和5年9月1日(金) No.15
文責
教育委員会学務課 吉田

・全国学調をどう生かすか

4月に行われた全国学調から、どんな分析をして、目の前の子供達にどんな力を付けさせたいか。

先日の校長会議で、吉里吉里学園小学部の藤井校長先生から、全国学調の分析をしたところ「国語の『書くこと』のうち、資料から自分の考えを書くことが弱いということがわかった」というお話がありました。

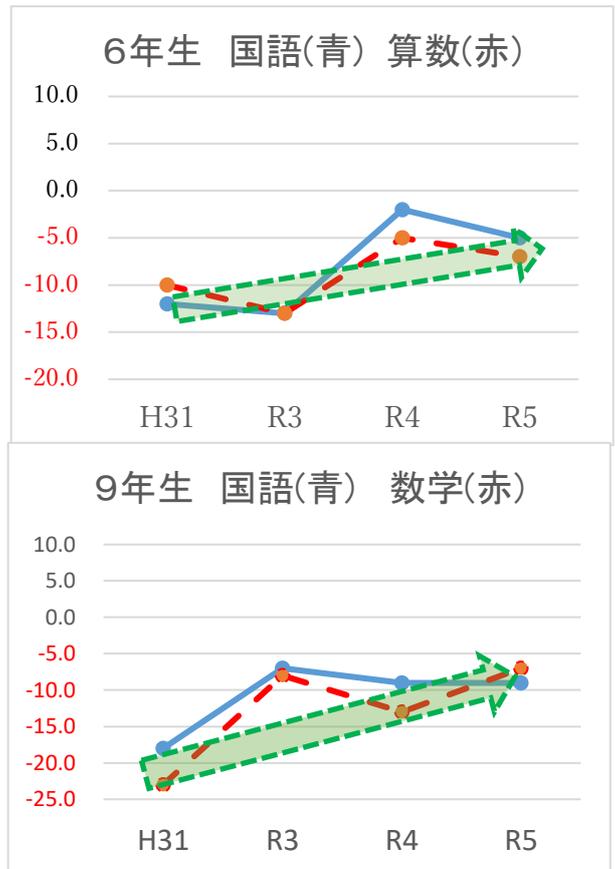
この分析により、国語だけの留まらず、どの教科のどんな場面で、どんなことを意識して授業づくりをすればよいか、見通しを持つことができました。

全国学調の問題は、ご承知の通り、学習指導要領で示された児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を、調査問題やその解説等に具体的なメッセージとして示し発信されたものです。

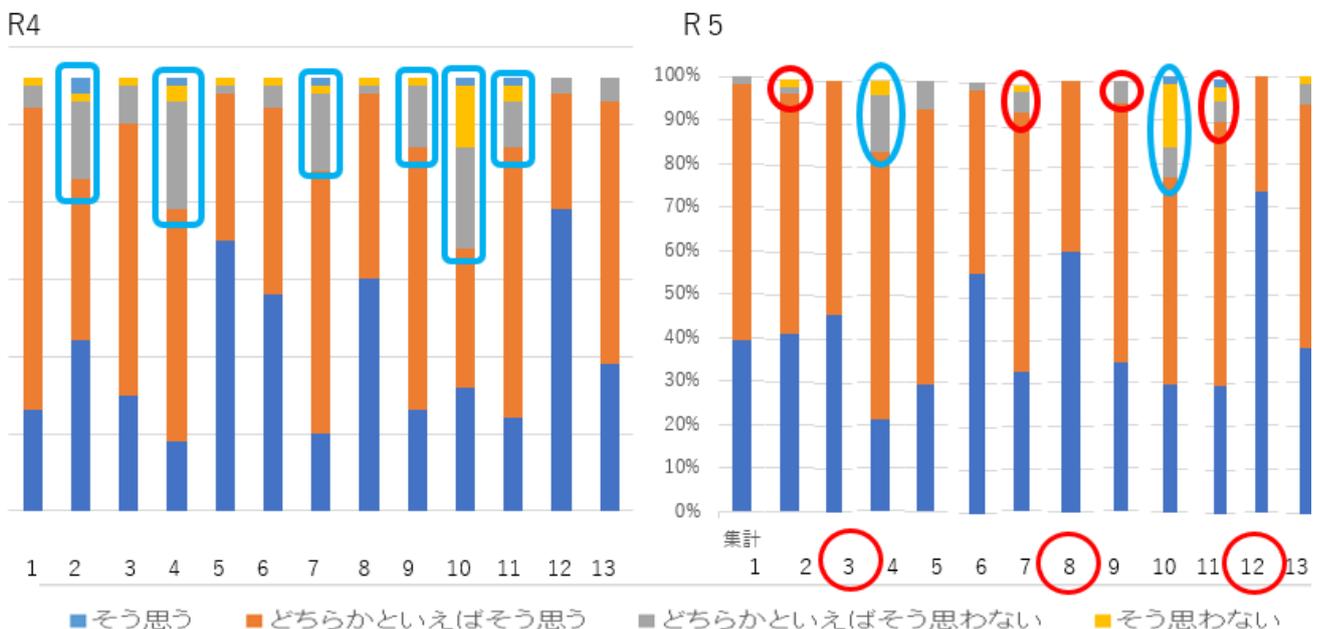
つまり、全国学調の問題を子供達がしっかり解けるよう、日頃から意識した授業づくりがポイントとなります。

以前は、県平均から-30~-10ポイントの状況だった大槌の子供達でしたが、大槌型3つの学びスタイル「授業」「家庭学習」「短学活」の定着(※下のアンケート結果から)、放課後の居場所での学び支援等により確実に成果が表れてきました。

(※9年生の英語は県比-7ポイント)



・一貫教育とC・Sの取組についてのアンケート 肯定的な回答が大幅増！



アンケート項目の3, 8, 12は肯定的な回答が100%となりました。昨年度と比較しても、肯定的な回答が大幅に増えていることがわかります。(※裏面の質問項目を参照ください。)

質問項目一覧

- 1 大槌町の目指す子ども像や学園のグランドデザインを理解している
- 2 教師間で授業の内容や進め方について意見交換を行なっている(校内研を含む)
- 3 子どもたちと目指す授業像を共有し、子どもたちと一緒に達成する努力をしている
- 4 毎回の授業で学習する課題を、発達段階に応じて子どもたちに設定させている
- 5 子どもたちが意見を出し合って学ぶ授業づくりを行っている
- 6 授業中に子どもが自分で問題を解く時間を設けている
- 7 授業で学んだことを、発達段階に応じて子どもたちにまとめさせている
- 8 間違いを認める雰囲気を作り、その中で授業を進めている
- 9 授業の終わりに、学習の成果(または課題)を実感できる振り返りをさせている
- 10 帰りの会等で、下校後の家庭学習の計画を立てさせている
- 11 授業の内容の理解を促す家庭学習の課題を計画的に出している
- 12 指導に課題を抱える子どもについて、他の教員と情報交換を行なっている
- 13 指導に課題を抱える子どもについて、家庭と情報交換を行なっている

○印は肯定的な回答が100%の項目

Q なぜ、大槌型短学活スタイルに「帰りの会で家庭学習の計画を立てる」を入れたのですか？

A ほとんどの先生方は小中学生の時、家に帰って決められた時間に家庭学習をしていたと思います。しかし、なかにはSさん(文責の人)のような人もいます。

家に帰って、なんとか机に座り、「今日は何をしようかな？」と考える。

30分経過・・・

1時間経過・・・

結局、勉強しないで終わってしまう。



大槌町の児童・生徒は、帰りの会で家庭学習の計画を立てたことで、

家に帰って机に座ると、すぐに学習に取り組むことができます。

何事もスタートが大事です。



☆吉里吉里学園中学部の実践

日程	家庭学習	
数	一晩6P	数学ドリル1枚 =1P 2枚以上
体	毎日の記録	一晩の教科 名をかくこと
英	家	ポケットの枠内を決める
理		
美	連絡	

なるほど、このホワイトボードがあれば、帰りの会で家庭学習の計画が立てやすいね!!

吉里吉里学園中学部の先生方は、「帰りの会等で、下校後の家庭学習の計画を立てさせている」について、100%肯定的な回答でした。

